

短大特任教員教育研究業績書

平成 30 年 4 月 5 日

氏名	ふりがな	所属	職位	性別
尾山 祥子	おやま しょうこ	保育学科 通信教育課程	教授・准教授・講師・ 助教	男・ 女

担当科目名

保育・教職実践演習 (幼稚園)、

学歴

和暦(西暦)年 月	事項	学位
平成 18 (2006) 年 4 月	佛教大学 教育学部 教育学科 入学	
平成 22 (2010) 年 3 月	佛教大学 教育学部 教育学科 卒業	学士 (教育学)
平成 22 (2010) 年 4 月	大阪教育大学大学院 教育学研究科 学校教育専攻 幼児教育学コース 入学	
平成 25 (2013) 年 3 月	大阪教育大学大学院 教育学研究科 学校教育専攻 幼児教育学コース 修了	修士 (教育学)

教育歴・職歴

名称	期間	教育内容又は業務内容
京都府医師会看護専門学校	平成 25 年 9 月～ 平成 28 年 3 月まで	非常勤講師「教育学」
佛教大学社会福祉学部	平成 26 年 4 月～ 現在に至る	非常勤講師「保育総合演習」「保育実践演習」
ヒューマンアカデミー大阪校チャイルドケアカレッジ	平成 28 年 1 月～ 平成 28 年 1 月まで	非常勤講師「チャイルドケアカレッジ特別講座」
奈良保育学院	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	専任講師「教育実習 A」「教育実習 B」「保育職概論」「保育方法及び技術」「保育・教職実践演習」「課題研究」
小田原短期大学	平成 29 年 4 月～ 現在に至る	保育学科通信教育課程 特任助教 「保育・教職実践演習 (幼稚園)」「保育実践演習」
佛教大学教育学部	平成 30 年 4 月～ 現在に至る	非常勤講師「幼児教育・保育職入門 H」

所属学会等

名称	活動期間	活動内容 (役職等の活動を含む)
日本保育学会	平成 23 年 4 月～ 現在に至る	
日本乳幼児教育学会	平成 28 年 7 月～ 現在に至る	

社会活動等

名称	活動期間	活動内容
特記事項なし		

担当教科目に関する資格・免許等

名称	取得年月	取得機関
幼稚園教諭 1 種免許	平成 22 年 3 月	京都府教育委員会
特別支援学校教諭 1 種免許	平成 22 年 3 月	京都府教育委員会
保育士資格	平成 22 年 3 月	京都府
幼稚園教諭専修免許	平成 25 年 3 月	大阪府教育委員会

研究実績に関する事項				
代表的な著書、論文等の名称	単著 共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. 保育者論	共著	平成 27 年 3 月	建帛社	「第 5 章 保育職の資質と専門性」を担当。保育職において重要な保育者の資質能力及び専門性について概説した。子どもの主体性を育む保育の方法や、『保育所保育指針』（2008）における「保育の専門性」を、具体的な保育場面のエピソードと結び付けて提示することを通して、保育職の本質や、その専門性が実際の保育場面においてどのように展開されるべきかをまとめた。 編著：松本峰雄・安藤和彦・高橋司 共著：内田裕子・尾山祥子・清葉子・興石由美子・佐藤和順・佐藤達全・高橋千枝・中島千恵・中村紀行・和田真由美
2. 幼稚園教育実習（コンパクト版保育者養成シリーズ）	共著	平成 29 年 3 月	一藝社	「第 7 章 実習の心構え」を担当。幼稚園教育実習に臨むにあたっての準備や心得について、実習前、オリエンテーション、実習中の大きく 3 つに分け整理し、解説を行った。適宜、具体例を挙げることによって、実習生自身が見通しをもって意欲的に実習に取り組めるようにすることを目指し、実習生としての望ましい態度や身に付けておくべき知識についてまとめた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著：谷田貝公昭・高橋弥生 共著：大崎利紀子・尾山祥子・岸優子・新谷龍太郎・杉山喜美恵・戸川俊・西元道子・春原淑雄・福山多江子・松田佐友里・森希理恵・山下佳香
(学術論文) 1. 指導計画作成過程にみる保育者の専門性に関する一考察—教育実習生の指導計画添削に着目して—	単著	平成 28 年 12 月	奈良保育学院研究紀要第 18 号、 pp.113-124	幼稚園教育実習生の指導計画作成過程における保育者の添削を分析し、計立案における保育者の専門性について考察した。保育者は、幼児の姿からねらいや活動内容を焦点化しており、長期的な発達の見通しの中に、日々の子どもの姿を位置付けていることが示唆された。また、多様で具体的な子どもの姿や空間イメージを基に、数多くある保育方法の選択肢の中から最も適切と考えられるものを見極め、計画に位置付けていること等が示唆された。
2. 2 歳児の遊びを支える担任保育者の実践的思考の検討—自由遊び場面に対する振り返りの語りに着目して—	共著	平成 30 年 3 月	エデュケア第 38 号、 pp.9-15	2 歳児クラス担任保育者の保育実践に対する振り返りの語りを分析することによって、2 歳児という時期の遊びの特性に配慮しながら、どのような実践的思考をはたかせ遊びを支えているのかを明らかにすることを目的とした。分析の結果、(1) 独自の着眼点と構造化された情報を活用、(2) 反復的捉え直しによる多面的子ども理解と具体的見通し、(3) 種蒔きの発想の 3 つの特徴が明らかになった。 共著：尾山祥子・中橋美穂
3. 授業満足度に影響を与える要因に関する一考察	共著	平成 30 年 3 月	小田原短期大学研究紀要第 48 号、 pp.221-226	授業評価アンケートにおいて授業満足度が高い授業を取り上げ、学生による自由記述の内容をテキストマイニングを用いて分析し、授業満足度に影響を与える要

				<p>因について検討した。分析の結果、授業におけるねらいや重要事項を把握できた場合、授業に対する前向きな姿勢や肯定的な感覚へとつながり、授業満足度が高められたのではないかと推測された。また、エンターテインメント性のある教材を用いることや具体的な事例検討等も、授業全体に対する理解度や満足度につながったことが示唆された。</p> <p>共著：吉野さやか・尾山祥子・木戸貴弘</p>
<p>(その他) 「学会発表」</p> <p>1. 保育実践にみる保育者の思考—行為と振り返りの語りから— (ポスター)</p>		平成 25 年 5 月	日本保育学会第 66 回大会 (於中村学園大学・中村学園短期大学) 大会発表論文集、p.773	<p>経験を蓄積した対象保育者の実践場面での援助行為と、その実践場面に対する振り返りの語りについて、SCAT(大谷: 2007, 2011)を用いて分析・考察をおこなった。その結果、子どもを取り巻く関係性を把握した上で、育ちに必要な機会を提供していること、場面や子どもの状態の推論に基づいて、様々な時間的展望で捉えた見通しを持っていること、課題意識の常在性、主体的な取り組みに向けた種蒔きの発想等の思考の特徴が明らかになった。</p>
その他 (表彰等)				